

探究学習の手引き

～持続可能な社会づくりの視点から～



一般社団法人MIT 学校教育支援チーム 平山俊章

手引き使用の目的

- 1 生徒の皆さんが、主に総合的な学習の時間における探究学習を進める際に、学習の進め方や各場面ごとに考えてみるとよい視点を整理しています。学習を効果的に進めていくための参考書として活用しながら、**主体的な学び**につなげていきましょう。
- 2 探究学習では、身に付けてほしい4つの学習ステップがあります。その中で、生徒の皆さんが得意とするステップやそこで発揮する能力には、個々に違いがあります。**興味・関心の違い**や**自分の得意とする能力**に気付き、伸ばすとともに、相互にその**個性を尊重**しながら**協働**して課題を解決していく力を身に付けましょう。
- 3 ロイロノートの総合学習フォルダに、各ステップごとのページをつくり、考えたことや調べたこと、参考になった友達の意見などを付せんにして書き留めたり整理したりしましょう。

手引きの使い方

1. 昨年の自分の学びの特徴・よさを確認したい

2. 今年の学習課題をどう決めるか考えたい

3. 学習の進め方がよくわからない

4. 探究学習における自分の学びの特性を知りたい

5. 今年の学習を振り返り自己評価したい

探究学習の手引き
持続可能な社会づくりの視点から



探究学習における4つの基本ステップ

ステップ1

課題の設定

課題をつくる

ステップ2

情報の収集

課題を解決するための情報を集める

ステップ3

整理・分析

調べたことをもとに考える

ステップ4

まとめ・表現

考えをまとめ、伝え合う

学習を進める中で、場合によっては前のステップに戻ったりすることもあるよ！

どのようにして探究テーマを見つける？



- 1 実生活や実社会で起きていることから「なぜ〇〇なんだろう」と疑問や問題意識を感じるテーマ。
- 2 なんとなくでも興味・関心を持っていることを明確化・具体化するテーマ。
- 3 振り返りシートなどを活用して自己の振り返りをしていき、「なぜ〇〇なのか」「〇〇の何がおもしろいのか」「どのようになりたいのか」などからテーマ。
- 4 「住んでいる地域はなぜ〇〇なのか」「地球温暖化で何が困るのか？」など、日頃から密接に関係している地域や環境のことをテーマ。
- 5 テーマ設定が最も重要です。焦らず、十分な時間をかけましょう。
⇒ AI にできないこと！AIの回答が100点ではない。実行力ない。

例えば：関心のある身近な社会問題は？



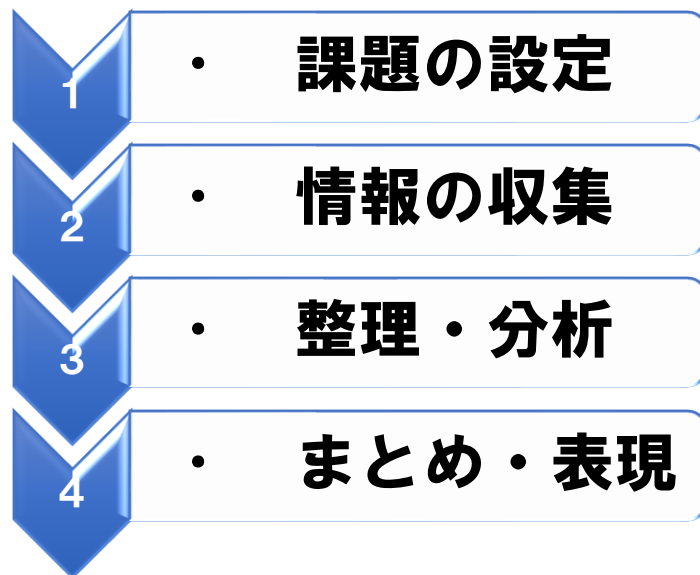
「対馬の持続可能な社会」の視点から考えたとき、あなたに興味・関心や問題を感じることは、以下のどの項目に近いですか？

<問題点の参考例> **あなたが気持ちをゆさぶられることを見つける参考にして！**

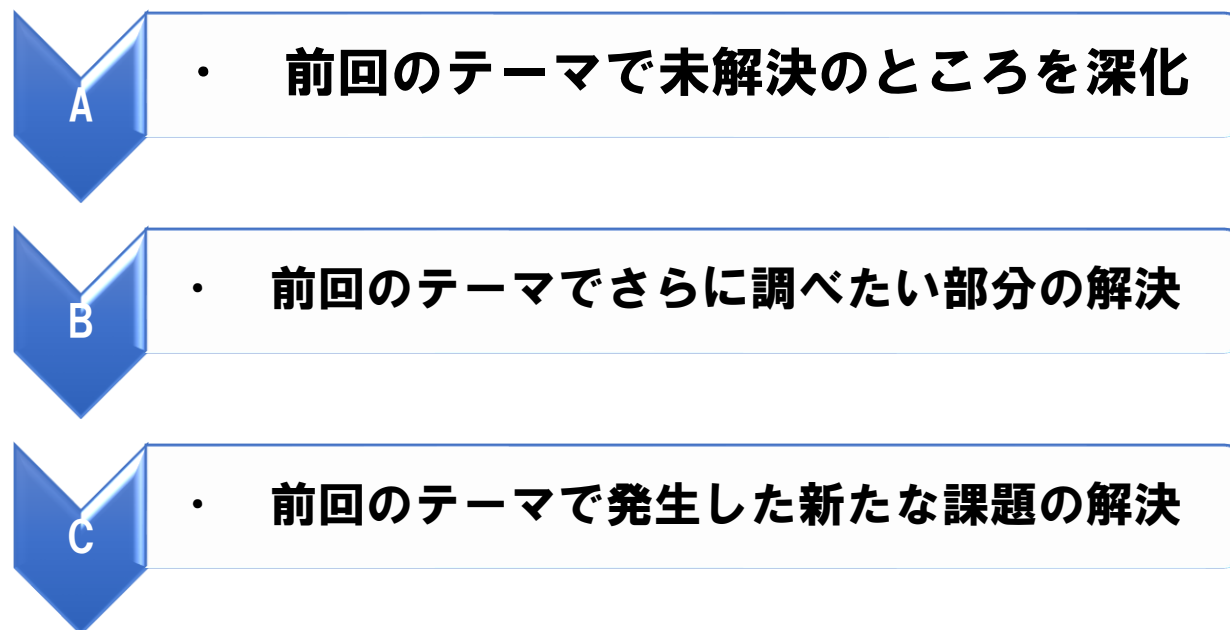
- 動植物など自然が失われつつある
- 島の文化が途絶えようとしている
- 人口減少に伴う様々な問題
- ごみが原因の環境の悪化
- 対馬独自の食料が少ない
- 島の魅力を伝える観光が心配
- 職業や仕事があまり多くない
- 交通・医療の不便なことがある
- 自分たちの地域に活気がない
- 気候変動の悪影響
- 島のエネルギーが続くのか心配
- 外国との交流や人権問題が気になる
- その他（ ）

チェック1 今回の探究課題は？

□ 新テーマを設定するケース

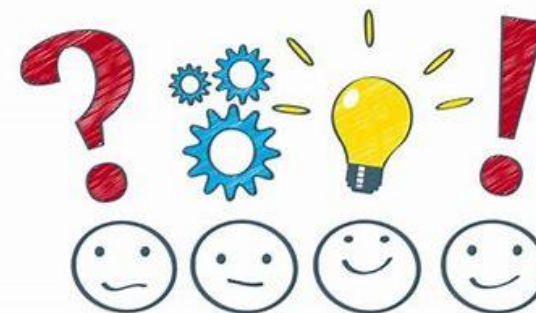


□ 2年目以降の継続ケース



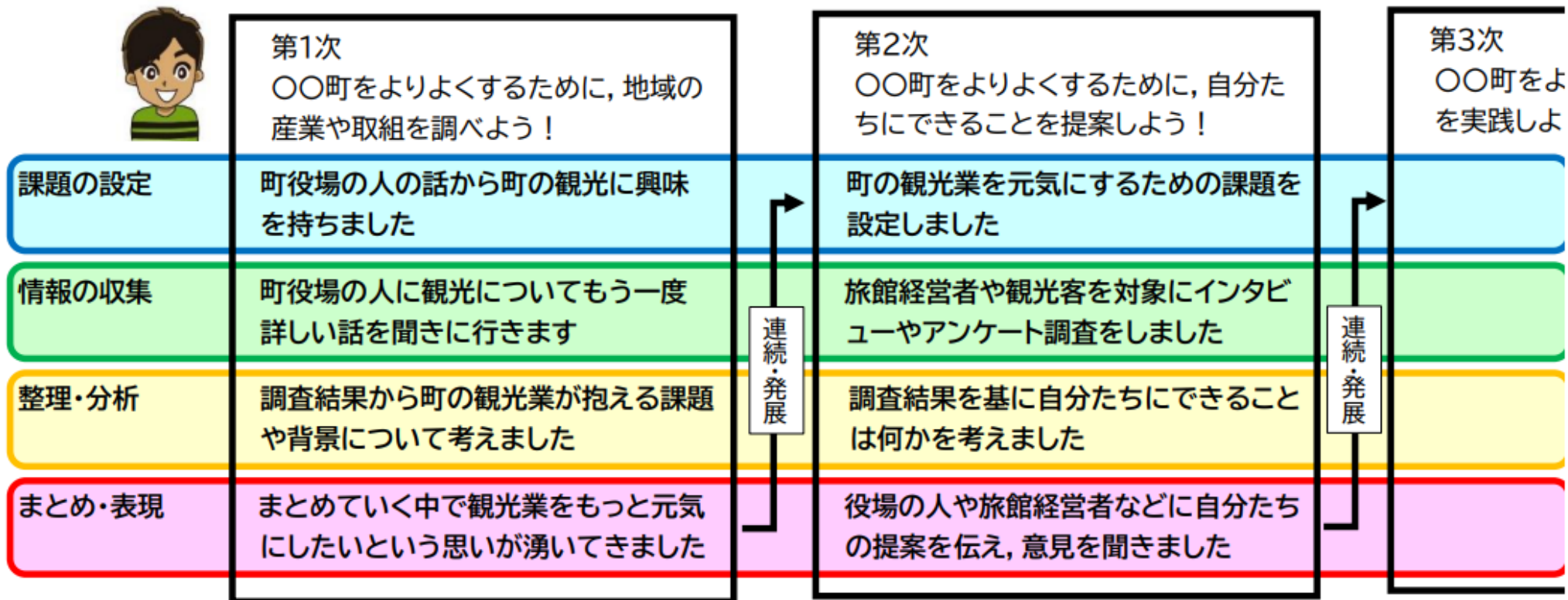
チェック2 探究課題の連続性を大切にするには？

- 昨年度のテーマについて、もっと調べたかったことを探究する。
- 昨年度のテーマについて、もっと調査領域・対象を広げて調べたかったことを探究する。
- 昨年度のテーマにおいて考えた自分の実践について、より具体的に実施方法を考え、その実践の過程や改善過程を探究する。
- テーマに関してどのような商品があり、今後どのような商品開発が必要か探究する。
- テーマに関してどのような職業の人が連携していたかについて調べなおし、今後どのような職業を生み出すかを探究する。
- SDGs 17の目標から、昨年と違う目標の視点で探究する。
- その他自分で考えた視点（ ）



探究課題を深めていくとは、

中学生 Aさんの活動例 テーマ：よりよい〇〇町にしよう！





◦ ストローをプラスチックから紙に

商品開発

スターバックス

漂着プラスチックの買い物カゴに

使い捨てプラスチックの使用禁止

ハビセツのおしり紙をプラスチックから別の材質に

職業開発

将来的にはプラスチックエネルギーに

対馬市

Nestle

キントカートのふくろをプラスチック⇒紙に

様々な企業

プラスチックを再利用し、新しい製品に変える。例: シャーペン、ボールペン等

再利用

プラスチックを減らす。

ウォータースタンド

ペットボトルの飲み物を買わずにすむウォータースタンドを設置する。

市民

プラスチック製品ではなく紙製品を購入する。マイバックを持参する。

(取り組んでいる人) (取り組んでいること)

(自分たちが調べた課題) 漂着ごみ

(解決策) 回収する

前年度

対馬市

補助金交付

一般社団法人 CAPP

ゴミ拾いの活動普及啓発

漁協・漁民

もっと調べたかった

市民

ゴミ拾いのボランティアに参加



実践の過程や改善過程

探究テーマはSDGsのどの目標につながる？

あなたが気持ちをゆさぶられるSDGsの目標も参考にしましょう。



チェック3 問題や課題を見つけるためには？

次のような方法があります。

- 体験活動したことやこれまでの経験と比較してみる。
- 資料やデータを集めて比較する。（教科書・図書・新聞・雑誌・記録写真など）
- 関係者の講話や聞き取り調査の予備情報から絞る。
- グラフなどの推移から今後を予想する。
- 情報カードをKJ法で整理・分類する。
- ウェビング図などの思考ツールに表して考える。

などから複数選択して実践してみましよう。

※ 太字の文字は検索して調べてみよう。

※ 問題は、現在発生している不都合な現象。課題は、問題を解決するために越えなければならない様々な視点からのハードル。

チェック4 課題を解決するための方法は？

<方策の参考例> **興味・関心のある方策を見つけてね！**

- より多くの人に知ってもらったり、関係事業者や市民に協力を働きかけたりする方法を提案し、実践したい。 **(行動型)**
- 問題を解決するための具体的なアイデア（商品製造・仕事の開拓・技術開発など）を提案し、モデルを作りたい。 **(製作・制作型)**
- 自分が始めた実践について問題点を調べ、効果を高めるための新たな実践を提案したい。 **(アップグレード型)** など
- その他の自分で考えた方法（ ）

チェック5 仮説を立てよう

課題の設定ステップを振り返り、仮説を文章に表してみましよう。

□ 対馬が持続可能な社会であるためには、
_____の問題を解決
する必要がある。そのためには、
_____を実践してい
けばよいのではないか。

*例 対馬が持続可能な社会であるためには、島のごみを適切に処理する問題を解決する必要がある。そのためには、家庭でできるわかりやすい処理方法について、市民への広報活動を工夫し、実践していけばよいのではないか。

チェック6 課題設定ステップの自己評価

ステップ1を振り返り、次の視点から振り返って文章に表してみましよう。

- どんな社会問題に興味・関心をひかれましたか。
- そのことに興味や関心がある理由を考えてみましょう。
- どのような課題解決の方法を選択しましたか。
- その方法を選択した理由を文章にしましょう。
- これからの学習の進め方に見通しがつきましたか。



文章化したことについて全体で伝え合い、いいね！やアドバイスをしましょう！

チェック7 情報の収集で考えること

情報の収集については、次のような方法が考えられます。

- 目的を考える：何のために情報を集めるのか確認する。
- 内容を考える：何を調べるのかはっきりさせる。
- 方法を考える：目的や内容に応じて、どのように調べるのか適切な方法を決める。
- 保存の方法を考える
：これからの学習，課題の解決に役立つように，必要に応じて集めた情報を保存しておく。

など

チェック8 情報の収集方法について①

情報の収集に当たっては、次のことも考えてみましょう。

- 自分たちで調べる（教科の先生と相談して各教科で調べることも可）
 - 本，図書などの書籍，グラフなどの統計資料
 - インターネット（情報の信頼性に注意）
 - 見学，観察，実験，調査（学校行事、理科、家庭科、社会科他）
 - 未経験ならば体験してみる。（学校外）など
- 詳しい人に聞く（総合、国語科、社会科他）
 - インタビュー
 - 学校に来てもらい，講話を聞く
 - 電話，メール，FAX など
- たくさんの人の意見を知りたい
 - アンケート
 - フリップボード



など

チェック9 情報の収集方法について②

情報の収集については、次のような方法が考えられます。

- 手作りアンケートによる調査を実施。
- フリップボードを提示してインタビューを実施。
- 図書室、つしま図書館、県立図書館等から資料を選ぶ。
- インターネット（タブレットなど）検索を利用。
- 電話、手紙、メール、FAXなどを利用。
- 実験・観察を通して、直接データを生み出す。
- 集めた情報をファイルに集積する。
- 集めた情報をコンピュータに集積する。



など

チェック10 アンケート・インタビューの方法

情報収集では、次のようなことを事前にチームで検討しましょう。

- 質問する内容項目と文章表現。
- 該当欄にチェックするのか文章で記述してもらうのか。
- 予想される回答とその時の追加質問の用意をする。
- 質問紙、フリップボード、インターネットなどの手法。
- 誰を対象に調査するか。
(生徒、家族、対馬市役所、対馬振興局、関係機関、市民一般、旅行者など)
- 考えた情報収集方法について先生と相談をしましょう。
など



いざ！調査活動

チェック11 情報収集ステップの自己評価

ステップ2を次の視点から振り返り、文章に表してみましよう。

- どんな目的で情報収集をしましたか。
- どんなことについて情報収集を行いましたか。
- どのような収集の方法を選択しましたか。
- その方法を選択した理由を文章にしましょう。
- 情報収集に向けてチームで相談しましたか。
- 情報収集に向けて先生と相談をしましたか。
- 取材活動では、講師や地域の人などと積極的に対話しましたか。
- 集めた情報をどのように保存しましたか。
- ねばり強く情報収集活動ができましたか。
- 仮説を証明するために必要な情報は収集できましたか。
- 情報収集のために今後身に付けたほうがよい能力は何ですか。

文章化したことについて全体で伝え合い、いいね！やアドバイスをしましょう！



など

チェック12 自分に合った整理・分析をしよう

収集した情報は、次のような方法で整理・分析しましょう。

(社会科、数学科、理科、家庭科、家庭学習の時間も応用しよう)

- スクラップシートで整理・分析する。
- 任意の図やベン図などの思考ツール等で整理・分析する。
- グラフで整理・分析する。
- マップで整理・分析する。
- 座標軸の入ったワークシートで整理・分析する。
- メリット・デメリットの視点で整理・分析する。
- 「ビフォー・アフター」の視点で整理・分析する。
- SWOT分析で整理・分析する。
- ホワイトボードで整理・分析する。
- ブレインライティングで整理・分析する。

*太字は、検索にかけて調べてみよう！



など

チェック13 持続可能性の視点から整理・分析

収集した情報を次のキーワードから、整理・分析してみましょう。

- **相互性:**あなたの生活とどのような関わりがありましたか。互いに関わりながらよさを生かしていると思われた内容がありましたか。
- **多様性:**それぞれには特徴があり「いろいろあるな」とあなたが感じた多種多様な事象や考え方には、どのようなものがありましたか。
- **有限性:**「命、資源、人、物、事象・・・」など、物事には終わりがあり、限りがあると思われたものには、どのようなものがありましたか。
- **公平性:**一人一人を大切にしなければならないことと関係がありましたか。
- **連携性:**「つながっている・つながりあっている・つながらなければならない」人達、組織や団体などには、どのようなものがありましたか。
- **責任性:**責任をもって行われていたこと、今後責任をもって行わなければならないことには、どのようなものがありますか。 など

チェック14 整理・分析で大切なこと

整理・分析する活動の中で使ってほしい思考は、

- 情報や事象を比較して考える。
- 分野・領域、時系列、データ量や重要度などから分類して考える。
- さらに重要性や優先性などの視点から序列化して考える。
- 因果関係や関連付けをしながら考える。
- 国語科や社会科、数学科、技術・家庭科などの教科等で学習したことを自分の収集したデータの処理に活用できないか考える。
- 各教科で学習する際に、今調べていることと関連付けて考える。
- 各教科の表現方法、製作・工作活動の時間を利用できないか考える。
など



※ それぞれに応じた思考ツールがあります。調べて活用しましょう。

チェック15 整理・分析ステップの自己評価

ステップ3を振り返って、

- 自分の考えをまとめるために必要な情報を選択できましたか。
- 情報や事象を比較して考えることができましたか。
- 分野・領域、時系列、データ量や重要度などから分類できましたか。
- 重要性や優先性などの視点から序列化できましたか。
- 因果関係や関連付けながら考えられましたか。
- 「持続可能な社会づくりのための概念」の視点から分析できましたか。
- 各教科の学習と関連付けたり、既習事項を生かして整理・分析できましたか。
- ねばり強く整理・分析に取り組みましたか。 など



チェック16 まとめ・表現の方法を選択する

発表に向けて内容をまとめ、効果的な伝え方に取り組みましょう。

- 誰に向けての発表・報告か（生徒・関係者・保護者・地域住民など）
- 振り返りカードを使って。
- 自己評価カードを活用して。
- プレゼンテーション・動画を利用して。
- 新聞・大型ポスター・パンフレットなどの紙面を使って。
- A4の用紙に整理してレポートとして。（国語科・社会科・家庭科・英語）
- パネルディスカッション形式（発表者同士の議論：国語科・社会科・家庭科）。
- シンポジウム形式（聴衆の意見を受ける：国語・集会・文化発表会）。
- 劇化・ミュージカル化・作品制作・創作ダンス（文化発表会・体育祭）。



チェック17 まとめ・表現で大切なこと

発表に向けて内容をまとめ、効果的な伝え方に取り組むために大切なことは、

- 仮説を立てたことを証明するために必要な内容で構成する。
(仮説通りにいかななくてもよい。その場合はうまくいかなかった理由を説明できればよい。)
- 学習で得た自分自身の考えを自分の言葉で表現する。
- 伝える相手意識や報告の目的意識を明確にする。
- 伝えるために最も適切と思われる具体的な表現方法を身に付ける。
- 学習を進めてきたことで発生してきた新たな課題な何か明記する。

など



チェック18 まとめ・表現ステップの自己評価

ステップ4を振り返って、

- 仮説を証明するために必要な内容で構成することができましたか。
- 自分の考えを自分の言葉で表現できましたか。
- 伝える相手意識や報告の目的意識を明確にすることができましたか。
- 適切な表現方法を選択し、わかりやすく表記・提示することができましたか。
- 各教科の学習と関連付けたり、既習事項を生かしてまとめ・表現できましたか。
- ねばり強くまとめ・表現活動に取り組めましたか。
- さらに追究していくべき課題は何かを見つけ、明記するなど

